

ナラ枯れ被害の発生状況について

9月13日に一関市内の広葉樹林でナラ枯れ（ブナ科樹木萎凋病）が発見されました。森林作業の経験がある森林所有者が、ミズナラの葉が枯れていることに気が付き、幹の根元にフラス（木くず）が堆積していたため、森林組合に通報したものでした。

林業技術センターで、樹幹内のカシノナガキクイムシを確認し、ナラ枯れ被害であることが確定されました。

9月16日に、ヘリコプターによる被害木の空中探査を実施した結果では、葉が茶色の枯死木は5本程度確認できた

だけでしたが、その後の地上調査で、葉は緑色でもフラスがでているミズナラとコナラを多数発見しております。このため、周辺の広葉樹林で徹底調査を実施し、関係者には被害を発見したら通報するよう呼びかけております。

被害木の駆除は、単木的な被害木について伐倒してくん蒸するほか、被害がまとまって発生している林では、皆伐してチップ化し利用する方法も考えられます。今後、被害発生状況に応じて駆除方法を森林所有者と協議することとしております。



幹にキクイムシの穿入孔があり、フラスが出ている被害木。（一関市、9月）



左の写真と同じ木。フラスは出ているが葉は緑色である。